

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像 ・「確かな学び」 他者の意見を聴き自分の考えを広げたり深めたりすることができる子ども ・「豊かな心」 正しい人権意識を持って行動し、自他の良さを認め合うことができる子ども ・「健やかな体」 心身の健康をはぐくみ、自他の生命を大切にできる子ども	堺市立上野芝学校 校長 池田 毅
--	---------------------

令和7年度 重点目標
健康で豊かな心を持ち、主体的に学ぶたくましい児童の育成 めざす子ども像「かがやく子」
【未来を切り拓く力を育成する学校】
○総合的な学力の育成(＝社会の担いてとして必要な力):授業改善 ○豊かな心と健やかな体の育成:個の自立⇄仲間づくりへの取り組み ○安心・安全を自らつくる力の育成:自分の命を自分で守る取り組み
【自主性・自律性に富んだ自立した学校】
○学校マネジメント力の向上(情報共有・予防的取組・危機対応) ○ウェルビーイング向上とデータを活用した自己評価でR-PDCAサイクルを確立(人事評価と学校力向上プランの連動)
○信頼される教職員集団へ(人権の尊重:コンプライアンス意識の向上)

確かな学びの現状 本校の児童は学ぶことに意欲的で、仲間とともに協働して学習に取り組む力、各教科の基礎・基本も良好に育っている。課題は、学校での学びを生かして次の課題へとつなげ「自ら学びを進める」姿にはまだ至っていないところである。学校では主体的・対話的な学びを進め、目的をもって学んだ成果を校内の仲間や身近な人に伝える学習活動を取り入れる中で、学ぶ意義を考えたり自らの学びを振り返ったりすることで、「自らの学びを進める姿」を高めていきたい。	豊かな心・健やかな体の現状 基本的な生活習慣が身についている児童が多い。豊かな心の素地である「あいさつ・返事」「そうじ」「言葉遣い」について様々な取り組みを行っているがまだまだ受け身の児童も多い。あいさつや掃除に心をこめて取り組むことは、自分を振り返り自らを成長させるため、また他者を理解し受け入れ仲間と協働するために不可欠であると気づかせたい。さらに自らの生活を見つめる習慣を持ち、改善のために取り組む意識や、安全のために自分の行動をよくしようとする意識も高めたい。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (11月)	達成状況(年度末)			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	授業改善	授業改善 (特別支援教育の視点⇄個別最適な学びと協働的な学びの充実)	算数科の系統性とながりに重点を置き、教材研究と授業づくりについて全教職員で研修を深める。	全教職員が参加する研究授業(計6回)の実施と全教員による校内公開授業(年間1回以上)を実施	研究・公開授業の実施及び、年度末の実践報告会の実施	年間計画に基づく実施・年度末	計画どおり、校内公開授業を行い、授業改善に努めている。また、ICTを有効活用した、個別最適な学びと協働的な学びの充実に向け研究を進めている。				
			●ICTを効果的に活用した授業デザインを構想し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実にに向けた研究を進める。								
			●児童のふりかえりや各種学力調査の分析を行い、児童の学びの実態・生活状況の把握をもとに授業改善を図る。	学力調査等の問題分析・結果分析。分析を生かした授業改善を検討	研修の実施(年間計画に基づき計画的に実施)	年間計画に基づく実施・年度末	児童学習状況調査「算数の授業で問題の解き方や考え方をノートに書いている」に対する肯定的回答率86.3%(6月)→87.6%(11月)と改善がみられる。				
			「上野芝授業スタンダード」の活用による、ノート指導の充実(自分の考えを書いている・めあてと振り返りが書かれている)	「算数の授業で問題の解き方や考え方をノートに書いている」の肯定率85%を超える	児童学習・生活状況調査による	年間計画に基づく実施・年度末					
			「上野芝授業スタンダード」の活用による、ユニバーサルデザインの授業の確立(特に板書の構造化の徹底)	授業つくりシートの活用(めあてとまとめがある・学習の過程が明確か、児童の学び方に応じた有効な支援か)	日々の授業交流で、互いの板書・授業について意見交流	各学年での教材研究に随時	異学年交流の場合や全校朝会において、自らの学びをまとめ発信する活動を積極的にやっている。				
			●外部人材等を活用した教科横断的な授業の推進と、学習の成果の発信の場の構築	「学んだ成果を、目的や相手を考えて伝える活動をしるか」の肯定率80%を超える	児童学習・生活状況調査による	学期に一度・年度末					
			★外国語科において、自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりする活動の充実	「英語で会話したい」の肯定率85%を超える	児童学習・生活状況調査による	学期に一度・年度末	「英語で会話したい」に対する肯定的回答率84.5%(6月)→83.0%(11月)であり、目標値85%に迫っている。				
	学習習慣	基礎学力の定着 学習習慣の確立	「家庭学習の手引き」「チャレンジノート」の活用による、家庭学習習慣・読書習慣の確立	・「1日あたりの読書」全くしないを10%以下に ・「テレビゲームの時間」の1時間以下40%を超える	児童学習・生活状況調査による	学期に一度・年度末	・「1日あたりの読書を全くしない」・・・14.0%(6月)→17.9%(11月) ・「テレビゲームの時間の1時間以下」・・・36.1%(6月)→37.8%(11月)であり、引き続き家庭と連携した取り組みを進めていく。				
			●既習事項を用いて課題に取り組む児童をめざし、授業及び朝の学習などで、既習事項を想起させる場面を設定する。	・単元ごとの評価テスト(基礎的な知識技能)の達成率を80%を超える	・単元ごとの評価テスト	学期に一度・年度末					
豊かな心・健やかな体		教育活動全体を通して、多様性を認め合い、人権が尊重される学校教育の実現 (自己肯定感や他者への思いやりを育む道徳教育・人権教育の充実)	考え議論する道徳の実践・児童が安心して過ごせるための生徒指導体制の構築・全校朝会での指導講話を、継続的・系統的に実施	・「道徳の学習は大切な」の肯定率90%を超える ・「自分によいところがありますか」の肯定率 85%を超える	児童学習・生活状況調査・学校生活アンケートによる	学期に一度・年度末	・「道徳の学習は大切な」・・・96.7%(6月)→97.9%(11月) ・「いじめはゆるさない」・・・94.0%(6月)→96.7%(11月) ・「悩みを聞いてもらえる」・・・78.8%(6月)→78.5%(11月) 以上の結果を踏まえ、道徳教育・人権教育の取り組みを継続していく。				
			●いじめ防止基本方針に基づくいじめの未然防止・早期認知・早期対応(アンケートの活用・対策委員会による組織的対応) 特別支援教育への理解に基づいた、児童・保護者の思いに寄り添った相談体制の構築	・「いじめはゆるさない」の肯定率 90%を超える ・「周りの困っている人に行きたくないか考える」の肯定率90%を超える ・「悩みを聞いてもらえる」の肯定率75%を超える ・「教育相談の体制が整っている」の肯定率 75%を超える							
			●学校行事や児童会活動において、清掃活動やあいさつ運動、仲間づくりをねらいとした取り組みを充実	・「相手の気持ちや状況を考えて行動」の肯定率85%を超える ・「近所の人にあいさつ」の肯定率85%を超える ●「掃除の時間は『黙って』『最後まで』取り組んでいる」の肯定率75%							
		体育指導・保健指導・食育を通した、健やかな体の育成	体育指導における運動量の確保と系統的な指導の充実	・「体を動かすことが好き」肯定率80%を超える ・「体育でどうすればうまくなり楽しくスポーツができるかを考えることがある」の肯定率75%を超える	児童学習・生活状況調査による	学期に一度・年度末	「体を動かすことが好き」・・・81.5%(6月)→83.3%(11月) 「自分の生活(睡眠・食事・生活習慣)を見直し、よりよくしようと思うことがある」・・・86.6%(6月)→84.5%(11月) 以上の結果を踏まえ、保健体育指導の取り組みを継続していく。				
			★保健指導及び眼育を通して、自らの生活習慣を整えようとする意識の向上 食育指導を通してバランスのよい食事摂取の必要性の理解を図る	・「自分の生活(睡眠・食事・生活習慣)を見直し、よりよくしようと思うことがある」の肯定率→80%を超える							
地域協働		学校間連携の推進	★幼小中連携を深め参観授業や合同研修を行い、協力や情報交換を行う。	・「小小連携・小中連携での取り組みに参加している」肯定率80%を超える	児童学習・生活状況調査による	学期に一度・年度末	「地域と連携する行事に取り組んだり、地域の行事に参加したりしている」・・・49.0%(6月)→44.8%(11月) この結果を踏まえ、地域とのつながりを実感できるような取り組みを継続する。				
		地域(行事への参加など地域協働の推進	ふれあい清掃、上小まつり、子どもカーニバルなどを中心に地域協働型の行事を推進する。	・地域・保護者と連携する行事に取り組んだり、地域主催の行事に参加したりしている」の肯定率80%を超える ・「地域の行事に参加している」の肯定率 60%を超える							

校長より(年度末)	学校関係者評価者から(年度末)
-----------	-----------------